

熊本大学大学院法曹養成研究科
平成25年度第2期募集 法律科目試験問題

商 法

平成24年10月27日(土) 13:00~16:30

解答上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題の中を見てはいけません。
2. 問題用紙は1枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚です。
3. 解答用紙には、熊本大学大学院法曹養成研究科の受験番号のみを記入し、氏名は記入しないで下さい。
4. 解答用紙は、正しい用紙に解答して下さい。
5. 解答は横書きにして、2枚の解答用紙(裏面も使用)に収めて下さい。解答用紙の追加・交換はしません。
6. 解答にはボールペンまたは鉛筆を使用して下さい。
7. 問題の内容に関する質問には応じません。
8. 貸与した六法に書き込みをしてはいけません。
9. 試験終了後、問題用紙および下書き用紙は持ち帰って下さい。

【問題】以下の事例を読み、設問に答えよ。(配点：40点)

A株式会社は食料品製造を業とする公開会社で、代表取締役B・取締役C・取締役Dおよび監査役Eがいる。A社はあるとき投機的な取引に失敗し、業績が急激に悪化した。

A社の発行済株式総数の2%を有するFは、長年ワンマン経営を行ってきたB、およびBを止められなかった経営陣の体質に問題があると考えた。A社の次の定時総会では、C・Dの任期が満了するため、取締役選任が議題になると予想された。そこでFは、同株主総会開催予定日の2ヶ月前、A社に対し、①Bの解任および②G・H・Iの取締役選任、を議題とするよう請求した。A社は、当該定時総会招集に際し、取締役会提案である③計算書類の承認、④C・Dの取締役選任議案に加え、②を招集通知に記載した。

この定時株主総会で議長をつとめたBは、③④の順に議案の内容の説明およびこれに続いて採決を行い、いずれも委任状を含む賛成多数で可決された。そこでBは、すでに取締役の員数は充足したとして②議案について採決しなかった。Fは①が取り上げられなかったことについて繰り返し質問したが、Bは「その質問は本日の議題に関連していない」として回答しなかった。

設問

Fは、この株主総会決議に不満を抱き、④決議の効力を失わせて①②につき決議をやり直させたいと考えている。Fはいかなる方法をとることができるか。Fに助言せよ。

以上